

## 盃状穴（凹み穴）のある越谷市内の石造物

須藤 賢一

### はじめに

盃状穴（凹み穴）のある越谷市内の石造物（十箇所十四基）を調べた。

盃状穴（はいじょうけつ）については諸説あるが、なんらかの目的で人為的に掘られたと考えられている盃状（さかずきじょう）の穴（凹み穴）で、石造物に多くみられる。呪術や土俗信仰と深くかかわっているともいわれているが、詳しいことはわかっていない。

### 越谷市内の盃状穴

- ① 大沢香取神社（大沢）
- ② 角堂坊（砂原）
- ③ 大里自治会館（大里）
- ④ 砂原久伊豆神社（砂原）
- ⑤ 下間久里香取神社（下間久里）
- ⑥ 大杉香取神社（大杉）
- ⑦ 林泉寺（増林）
- ⑧ 北越谷稻荷神社（北越谷）
- ⑨ 西福院（谷中町）
- ⑩ 十王堂（宮本町）

#### ① 大沢香取神社（大沢）

一基目は、盃状穴のある石灯籠（挿図①）  
場所は大沢香取神社の参道。江戸後期・文化十二年（一八一五）建立。基壇（中段の台石）の四面すべての上面に凹み穴が見られる。

（特記）この盃状穴は越谷市郷土研究会の秦野秀明氏が発見した。

#### ② 角堂坊（砂原）

二基目は、盃状穴のある石（挿図②）  
場所は砂原にある角堂坊墓地。堂舎の前に置かれている石の至るところに凹み穴がみられる。石の大きさと形からみて、踏石（ふみいし）／沓脱石／靴脱石（くつぬぎいし）として使われていたものと推定できる。

（特記）この盃状穴は越谷市郷土研究会の秦野秀明氏が発見した。

### ③ 大里自治会館（大里）

大里にある大里自治会館。旧日光街道沿いにあるこの場所は、かつて秀蔵院と呼ばれた寺院の跡地。現在は自治会館と共同墓地を兼ねている。墓地の片隅にある二基の庚申塔と一基の出羽三山供養塔に盃状穴がみられる。

(一) 文字庚申塔（挿図③）

三基目は、江戸後期・天保五年（一八三四）の文字庚申塔。

石塔型式は山状角柱型。大里村講中寄進。石塔の上底面（とがった部分）、三猿、台石（上段・下段）に凹み穴がみられる。とくに台石下段は大きく深い穴が目立つ。

（特記）この盃状穴は越谷市郷土研究会の加藤幸一氏が発見した。

(二) 文字庚申塔（挿図④）

四基目は、江戸後期・享和二年（一八〇二）の文字庚申塔。

石塔型式は山状角柱型。石塔の上底面と台石に凹み穴が見られる。穴の数はそれほど多くない。

（特記）この盃状穴は越谷市郷土研究会の加藤幸一氏が発見した。

(三) 出羽三山供養塔（挿図⑤）

五基目は、江戸後期・天保十五年（一八四四）の出羽三山供養塔（1）。石塔型式は山状角柱型。石塔の台石、上段・下段ともに相当数の凹み穴がみられる。<sup>2</sup>

（特記）この盃状穴は越谷市郷土研究会の加藤幸一氏が発見した。

以上、五基の盃状穴のある石造物は、加藤・秦野両氏の報告に基づき現地調査したものだ。ここから先、六基目以降の盃状穴のある石造物は、私が越谷市内をまわって見つけた。

### ④ 砂原久伊豆神社（砂原）

砂原の鎮守・砂原久伊豆神社。手水舎（ちようずや）に置かれている手水石（ちようずいし）と、第一鳥居の手前、道角の樹木の下にある猿田彦大神文字塔に盃状穴がみられる。

(一) 手水石（挿図⑥）

六基目。明治二十一年（一八八八）奉納の手水石（2）  
向かって右側の縁に三箇所、凹み穴がみられる。

(二) 猿田彦大神文字塔（挿図⑦）

七基目。明治五年（一八七二）造塔の道標付き猿田彦大神（さるたひこおおかみ）文字塔。石塔型式は山状角柱型。石塔の上底面（とがった部分）と台石に凹み穴がみられる。

道しるべにもなっているこの文字塔は、もともとは別の場所にあった。越谷市郷土研究会の加藤幸一氏は「もとは、近くの県道路傍にあった。県道越谷岩槻線から砂原久伊豆神社に入る道の角地」(3)にあつたと述べている。

⑤ 下間久里香取神社（下間久里）

八基目は盃状穴のある敷石供養塔（挿図⑧）

場所は下間久里の鎮守香取神社。鳥居の手前、参道の両脇にある一对の敷石供養塔。江戸末期・安政五年（一八五八）奉納。石塔型式は角柱型。二基ともに上底面に凹み穴がみられる。

⑥ 大杉稻荷神社（大杉）

九基目は盃状穴のある置き石（挿図⑨）

場所は大杉の鎮守・稻荷神社。香取社も合祀されているので「大杉香取神社」「大杉神社」とも呼ばれている。

本殿裏手の集会所に向かう寺参道入口に、江戸後期・文化六年（一八〇九）造塔の文字庚申塔がある。

庚申塔の前に、台石のような石が置かれているが、上底面に大小さまざまな凹み穴がみられる。庚申塔には凹み穴はみられない。

⑦ 林泉寺（増林）

十基目は盃状穴のある手水石（挿図⑩）

場所は増林の林泉寺。参道入口・不動堂の前に置かれている手水石（年代不詳）の正面上部、ヘリの部分に凹み穴が見られる。

⑧ 北越谷稻荷神社（北越谷）

十一基目は盃状穴のある猿田彦大神文字塔（挿図⑪）

場所は北越谷の稻荷神社。石塔群の中の一基、江戸後期・文政八年（一八二五）造塔の道標付き猿田彦大神文字塔。石塔型式は山状角柱型。

石塔の上底面（とがった部分）に凹み穴がみられる。

⑨ 西福院（谷中町）

越谷市谷中町にある西福院。参道入口にある青面金剛像庚申塔と普門品供養塔に盃状穴がみられる。

（一）青面金剛像庚申塔（挿図⑫）

十二基目。江戸中期・享保三年（一七一八）造塔の青面金剛像庚申塔。石塔型式は山状角柱型。三猿の下部に一箇所、台石の二箇所に凹み穴がみられる。

(二) 普門品供養塔 (挿図⑬)  
十三基目。江戸後期・天保十一年(一八四〇)造塔の普門品(ふもんぼん)供養塔(4)。石塔型式は山状角柱型。石塔の上底面(とがった部分)に凹み穴が一箇所みられる。

⑩ 十王堂集会所(宮本町)  
十四基目。盃状穴のある青面金剛像庚申塔(挿図⑭)  
場所は宮本町一丁目の十王堂集会所。江戸中期・明和八年(一七七一)の青面金剛像庚申塔(山状角柱型)の上底面(とがった部分)に凹み穴がみられる。

### おわりに

今回の調査で、越谷市郷土研究会の秦野秀明氏と加藤幸一氏が発見した越谷市内の盃状穴のある石造物五基に、九基を加えることができた。もっといいねいに探していけば、まだ見つかる可能性は高い。今後も折に触れて調査を続けていきたい。

### 【注】

(1) 古くから信仰の対象として崇められてきた山形県の月山(がっさん)羽黒山(はぐろさん)湯殿山(ゆどのさん)を出羽三山と称し、三山を参拝した記念に建てられたのが出羽三山供養塔。江戸時代、三山参りが盛んに行なわれた。

(2) 手水石の銘が薄れて読みとれなかったので『越谷ふるさと散歩(上)』越谷市史編さん室(昭和五十四年八月二日発行)「砂原の集落と久伊豆神社」の項一六九頁に書かれている「明治二十一年の御手洗石」に従った。御手洗石は手水石のこと。

(3) 加藤幸一「荻島地区の石仏」平成十四年度調査／平成二十九年三月改訂(越谷市立図書館蔵)「砂原久伊豆神社」四十五頁

(4) 普門品(観音経Ⅱかんのんぎょう)を一定回数読誦した記念に建てられた供養塔。

### 【参考文献】

武内一忠『発見して保存しよう盃状穴探索ガイドブック』ヒカルランド

(二〇二四年四月三十日初版)

加藤幸一「桜井地区の石仏」平成五・六年度調査／平成三十一年八月改訂

(越谷市立図書館蔵)

加藤幸一（二〇一〇）「石造物にみられる謎の『盃状穴』」  
<http://koshigayahistory.org/67.pdf>（二〇二五年一月十六日閲覧）  
 栗東市・広報りっとう（二〇一一）「忘れ去られた信仰の石『盃状穴』」  
<https://www.city.ritto.lg.jp/koho/1101/pdf/r0117.pdf>  
 （二〇二五年一月十六日閲覧）  
 日積・史跡一覽（二〇一七）「石神様の盃状穴」  
<https://hizumi-yoitoko.com/spot/no10>  
 （二〇二五年一月十六日閲覧）  
 備陽史探訪の会（一九九六）「土俗信仰としての盃状穴遺跡について  
 （福山市千田町を例として）」  
<https://bingo-history.net/archives/13626>  
 （二〇二五年一月十六日閲覧）

【挿図出典】

挿図①～④はすべて筆者撮影

【挿図一覽】



（挿図①）  
石灯籠  
大沢香取神社



（挿図②）  
踏石  
角堂坊（砂原）



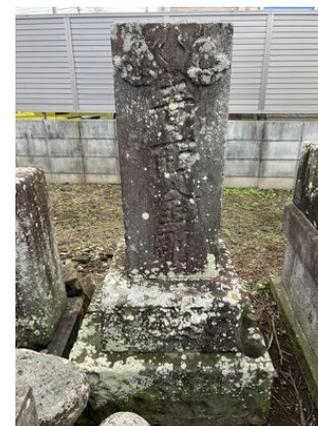
(挿図⑥)  
手水石  
砂原久伊豆神社



(挿図⑤)  
出羽三山供養塔  
大里自治会館



(挿図④)  
文字庚申塔  
大里自治会館



(挿図③)  
文字庚申塔  
大里自治会館



(挿図⑩)  
手水石  
林泉寺 (増林)



(挿図⑨)  
置き石  
大杉稻荷神社



(挿図⑧)  
敷石供養塔  
下間久里香取神社



(挿図⑦)  
猿田彦大神文字塔  
砂原久伊豆神社



(挿図⑭)  
青面金剛像庚申塔  
十王堂集会所 (宮本町)

(挿図⑬)  
普門品供養塔  
谷中観音堂

(挿図⑫)  
青面金剛像庚申塔  
谷中観音堂

(挿図⑪)  
猿田彦大神文字塔  
北越谷稻荷神社